

教 育 改 善 提 案 書

所属学科名 (または所属課又は団体名) 看護学部 看護学科

応募者氏名 (代表者氏名) 山路由実子

1. 提案名	共生社会の実現にむけて ～「家族みまん。」への参加を通して、できることから始めよう～
2. 趣旨・理由を含 めた提案内容の 概要	「共生社会の実現」を目標として2024年1月1日に「認知症基本法」が施行され、国は12月3日に「認知症基本計画」を策定公表しました。認知症については、高齢者のみでなく、65歳以下で発症する若年性認知症についても社会の関心が高まっています。 本学は、保健医療福祉に将来従事する人材を養成しており、認知症の方々のケアに携わることは日常です。しかし、病院や施設で携わることがほとんどであり、介護家族の率直なお気持ちを聞かせていただく機会は限られています。 「家族みまん。」で認知症の人や介護家族の方々と共にリレーション等を通して、日々の生活や出来事、不安等を共有することは、認知症や介護家族への理解を深め「共生社会の実現」にむけて、「自分には何ができるのか」と考える機会になると思い提案いたします。また、接し方などを学ぶ機会ともなります。 「家族みまん。」は、市民のボランティアの方々にも支えられており、多様な経験をお持ちの方々との出会いは、知見を広げていく機会ともなります。 これから、専門科目の学習を深めていく前の出会いは、医療人としての礎になると考え、「医療人底力実践Ⅳ（他学科連携プログラム）」のゼミとして実施したいです。
3. 提案の具体的な内 容	「医療人底力実践Ⅳ」ゼミとして 1. 「認知症施策」「認知症の特徴」「ご本人や介護家族の困りごと」等、学生間で認知症に関しての疑問等を出し合う 2. 上記の中から、複数のテーマを決めて、既存資料等でグループ学習を行う。 3. グループ学習の内容をグループでまとめ、発表し学びを共有する。 4. 上記が学んだテーマをもって「家族みまん。」に参加する。 5. 「家族みまん。」に参加後には、学生間で意見交換し学びを深める。 6. テーマにそってグループで学びをまとめる。 7. ゼミの成果として学園祭で発表する。

4. 期待できる効果	各学生が学習前に抱いていた認知症感や介護家族感の偏りに気付く機会になると共に、今後専門職として学んでいくなかでの貴重な体験となり、国がめざす新しい認知症感 「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方。」に近づく機会にもなる。 また、本学学生が本会の活動に参加することは、本学の社会貢献となると共に、継続していくことで、安定した地域社会資源へと発展させていく。 可能であれば、学園祭での発表を会にフィードバックしていきたい。 上記の効果は、いずれも本学のアドミッションポリシーを育む機会となる。
-------------------	---